

# インドネシア, スラウェシ島における衣生活 (第1報)

—— トラジャ族の伝統的社会構造 ——

古川智恵子・森川里子

## The Clothing Life in Sulawesi Island, Indonesia ( Part 1 )

—— The Traditional Organization of society of Toraja Tribe ——

Chieko FURUKAWA and Satoko MORIKAWA

### はじめに

海に囲まれた日本には、昔から多くの文化が海を渡って伝来した。それは沿海州、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、南太平洋と実に広い範囲にわたっている。

東南アジアの海洋に広く分布している島々では、今なお、それぞれの島で独自の文化を伝承し守り続けながら生活している。このことは、アジアの生活文化伝承の流れを研究する上で重要な実証を示すことにもなろう。著者らは、かねてより近隣地域の農山村、海村部の日常・非日常の衣生活について一連の調査を行って来た。その結果、仕事着の形態、機能は生業と密接な関わりを持ち、日常生活に裏付けされるものであることが認められた。その仕事着の代表格でもあると考えられる褌・腰巻きは、そのルーツであると推察される、インドネシア、ミクロネシア等の、南方系民族の衣服であり、それらの国の日常・非日常の衣生活について調査することは、日本の固有文化の根源を確かめる意味で、誠に意義あることと考える。

然して昨年度は、インドネシア、スンバ島の海岸地域および、内陸部の代表的集落における衣生活を、伝統的側面と変容面から調査研究を行った。その結果、スンバ島民の衣服文化は、背後に存在する伝統的社会構造と気候風土に密接な関わりを持ち、スンバに見られる褌・腰巻きの形態は、我が国におけるそれらの祖型、ルーツとも考えられ、興味深いものが知見された。

本研究は、以上をふまえ、インドネシアの一島であるスラウェシ島において、同視点から衣生活を調査考察し、解明することを試みる。

### 調査方法

調査時期は、1988年8月上旬から下旬まで、スラウェシ島の南スラウェシ Mamasa 地方にて現地調査を行った(図1)。質問紙による面接、聞き取り、実物写真撮影、計測等の方法により、資料を収集し、分析考察を行った。通訳は、インドネシア語、英語に精通した和歌浦幸英氏が同行してくれたので、順調に調査は進行した。

### 結果および考察

#### 1. 調査地域

図1に調査の地域を示した。スラウェシ島は、カリマンタン島とマルク諸島の間に位置して

おり、マカッサル海峡から、南太平洋に向かって蘭の花が咲いたような島がスラウェシ島である。行政上、北スラウェシ、中スラウェシ、南スラウェシ、東南スラウェシ州の4州に分かれている。

今回の調査地点である Mamasa は、南スラウェシ州にあり、州都 Ujung Pandang の港から北方約400kmのところにある。この港から、北に向かって坦々と延びている一本の自動車道路を通り、左手にマカッサル海峡の見えかくれする道を、Pare-Pare, Polewali を通り、約10時間かかって、目的地の Mamasa へと到着した。このあたりは、海拔700～800m、周囲には1500～2000m級の火山岩の山なみが広がり、Mamasa 川が流れ、水田のある風光明媚な高原地帯で、東は Rantepao, 北は Sadan まで延びているのがタナ・トラジャ地区である。

タナ・トラジャ地区とは、天国に近いトラジャ族の住む地域という意味で、約50万人いるが、そのうち、Mamasa 県は、4群40内外の村に分かれている。

## 2. スラウェシ島の概要

スラウェシ島の概要を表1に示した。スラウェシ島の面積、人口、気候風土は表1に示した

表1 スラウェシ島の概要

面積	17万9,400km <sup>2</sup>	
人口	1,041万人 (70%は 南スラウェシ州に集中)	
気候風土	気候	高温であるが、島内全土に達する海風により緩和される。
	雨量	北スラウェシ、南スラウェシ ともに年2,800mm程度。
	川	短く、これを利用して奥地へ入ることは困難。
	湖	全島山がちで、ポソ・マタナ・トウチ等の湖水がある。
種族	<原マライ人種>	キリスト教・イスラム教・アニミズム (祖霊崇拜)
	・中央部 (トラジャ族) ・東南部 (トラジャ族)	
宗教	<新マライ人種>	キリスト教・イスラム教
	・南部 (ブギ族 マカッサル族) ・北部 (ミナハサ族)	
生業	焼畑耕作 (米・トウモロコシ・キャッサバ・タペオカ・タロイモ・ヤムイモ・コーヒー・タバコ) やしの実・バナナ コブラ・木材・ダマル樹脂 染織	

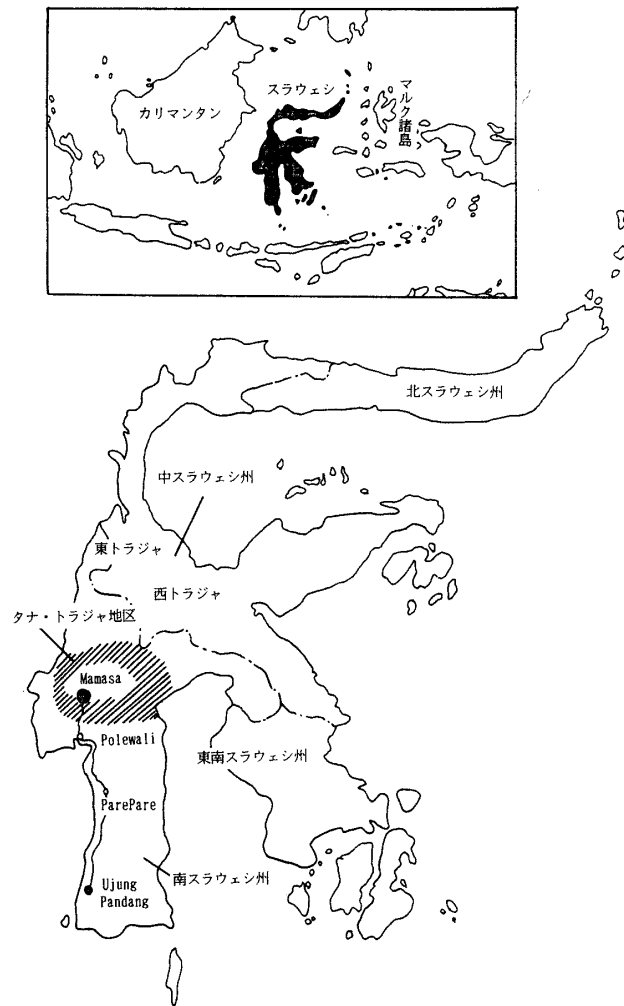


図1 調査地域

通りである。人種の分布は、原マライ人種のトラジャ族が中央部と東南部に住み、新マライ人種のブギ族、マカッサル族が南部に、ミナハサ族が北部に住んでいる。宗教は共に、キリスト教かイスラム教を信じているが、祭儀ではアニミズムの土着信仰ですべて行われている。

生業は、焼畑耕作で米・トウモロコシ・キャッサバ・タペオカ・タロイモ・ヤムイモ・コーヒー・タバコ・やしの実・バナナ等を栽培している。また、コプラ・木材・ダマル樹脂や、染織等を行っている地域もある。

### 3. トラジャ族の伝統的慣習

衣生活は、衣食住という三つの日常生活の中で複雑にからみ合いながら、文化的変容の大きい側面を持っていると考える。したがってこの意味から、その土壌となる住まいや暮らしについてもふれる必要がある。

#### (1) 居住

トラジャ族は高地住民である。その住まいはインドネシア・スラウェシ島の中央部、内陸山岳地帯であり、境界のはっきりした区域に多数の村が独立している。

#### (2) 社会的慣習

1) トラジャ社会では、財産のすべてが全成員によって共有されるべきだと信じており、共同精神が旺盛である。したがって、全成員の同意なしには何も売ることが出来ない。

2) 世襲的な階級区分が今も固く守られている。その区分は、貴族・その縁者・平民・使用人の順である。

3) ひとつの家には数家族（大家族）が住み、屋内の家具は少なく、2～3の粗末な腰掛けとテーブルがあるだけで、ベッドはない。床の上に、アシを編んで作ったゴザを敷き、サロンにくるまって寝る。

4) 家の近くには、各家族にひとつずつの納屋があり、ここに米を貯蔵しておく。

5) 家族は、水牛や豚など2～3の家畜を所有し、綿製品のたくわえも持っている。

6) 家長達は、村長や長老達と共に、毎年どの家族がどこの土地を耕作するかを決める。家族は、土地を絶えず耕作することによって、その割当を受ける権利を保つことが出来る。

7) トラジャ族の人生観は、葬儀が生涯における幸福追求の最大なる儀式であると考えられている。

#### (3) 性役割

トラジャ族の性役割は、その世界観に基づき、宇宙そのものが両極的で、上界即ち、天は男性、下界即ち、地は女性と関連づけて考えられている。その思想の中には、男女の位置付けがはっきり枠組みされ、認識されている。以下は、男女の仕事の役割分担である。

男性	地上高く生じる果実の採取（やしの実・バナナ）
	牧畜・耕作
	会議
女性	地下に生じる塊根類の耕作および採取（米・タロイモ・ヤムイモ・キャッサバ）
	育児・洗濯・料理

### 4. タナ・トラジャの祭儀

タナ・トラジャとは天国に近いトラジャ族の住む地域という意味で、その祭儀は、すべて世界観の思想にもとずき、二種類に大別される。ランプ・トゥカとランプ・ソロである。

ランプ・トゥカは、日の出の祭儀で、生命の誕生や、様々の感謝祭、また、住居や穀倉の新築、結婚式等、よろこびの祭儀を意味している。

ランプ・ソロは、日没の祭儀であり、生命の終わり、即ち葬儀の事で悲しみの祭儀を意味している。表2は、タナ・トラジャの祭儀をまとめた表である。

### 5. トラジャ族の伝統的家屋

トラジャ族の伝統的家屋を図2に示す。トラジャ族の家屋はトンコナンと呼ばれ、共同体用家屋であり、大家族が住んでいる。トラジャ社会には、王侯・貴族・平民・使用人の階級制度があり、それによって家の様相にも差が見られる。図2-aは、上流家庭のトンコナンであり、屋根は立派な舟型で、軒の前後が湾曲して高く突き出ている。どこの家の屋根も南北方向を指しており、平和と安全と繁栄を保障するために、入口は東(日の出)を向いている。bは平民の家、cは使用人のトンコナンで、その構えは貧相なものである。dは、内部が三層に分かれ、一番上層部の部屋は、祈りをするためにあり、二番目の部屋が治療をするための病人用、そして一番低いところにある部屋が死んだ人を収容する部屋なのである。これらのトンコナンは、釘が一本も使用されておらず、屋根は、竹の細片を重ね合わせたものであり、床と壁は、竹かシュロの木で編まれている。

表2 タナ・トラジャの祭儀

ランプ・トゥカ (日の出の祭儀)	ランプ・ソロ (日没の祭儀)
・生命の誕生	・生命の終わり (葬儀)  悲しみの祭儀
・感謝祭	
・住居	
・穀倉	
・結婚式	



① 上流 (貴族) 家庭



② 平民



③ 使用人

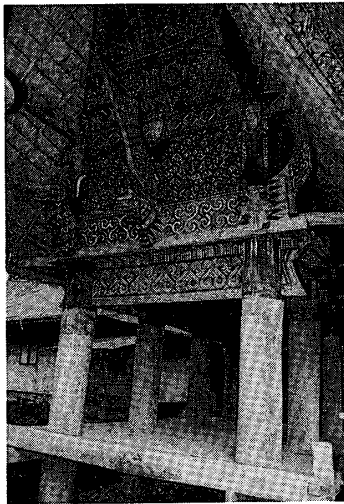


④ 内部が三層に分かれたタイプ

図2 トラジャ族の伝統的家屋 (トンコナン)

### 6. トラジャ族のルンボン・パディ (米倉)

図3はトラジャ族の各階級層による、ルンボン・パディ (米を貯蔵する場所) である。前述したトンコナン (共同体用家屋) と同様に、各階級によって様相が異なる。図3-aは、貴族



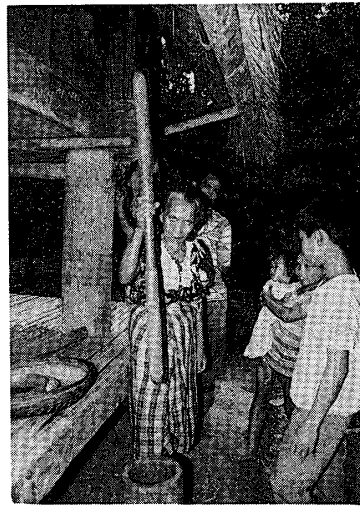
㉓ 貴族



㉔ 平民



㉕ 使用人



㉖ ルンボン・パディの庭で  
コーヒー豆をつく女性

図3 トラジャ族のルンボン・パディ（米倉）

の米倉で、壁には彫刻が施されているが、㉔の平民の米倉には、それが見られない。㉕は、最も階級の低い使用人のもので、見るからに粗末な作りである。

・収穫期の儀式

米の収穫期になると、儀式が行われる。それは、一本の縄をルンボン・パディに結びつけ、それを田畑にまで伸ばし、松明を持った4～6人の少女が数本の稲の茎に豚の血をまき、その茎を切り取って束にし、ルンボン・パディにしまわれる。その稲の束が、ルンボン・パディの中の、すべての米を保護し、保存すると、トラジャ族は信じている。

また、その他の使われ方として、ルンボン・パディの庭では、コーヒーを飲みながら話し合ったり、客をもてなすための、村人達の共同の集会場としても使用される (㉖)。

ま と め

本報告は、スラウェシ島、南スラウェシ、タナ・トラジャ地域に住む、トラジャ族の衣生活を解明するため、伝統的社会構造に視点をあて分析を試みた。要約は次のとおりである。

1. トラジャ族は、島の中央部、内陸山岳地帯に住む高地住民で、境界のはっきりした区域に、多数の村が独立している。

2. トラジャ族社会では、世襲的な階級区分が、今も固く守られている。その区分は、貴族・その縁者・平民・使用人である。

3. ひとつの家には数家族（拡大家族）が住み、家具は少なく、2～3の粗末な腰掛けと、テーブルがあるだけで、ベッドはない。トラジャ社会では、財産のすべてが全成員によって、共有されるべきだと信じており、共同精神が旺盛である。

4. 家の近くには、各家族にひとつずつの納屋があり、ここに米を貯蔵しておく。

5. トラジャ族の人生観は、葬儀が生涯における、幸福追求の最大なる儀式であると考えられている。

6. トラジャ社会では、彼等の世界観（宇宙観）にもとづき、男女の性役割・祭儀の分け方等、社会慣習が確立している。即ち世界観とは、宇宙は両極的で、上界（天）は男性、下界（地）は女性と関連づけて考えられている。その思想の中には、男女の位置づけが、明確に枠組みされ認識されている。したがって男性の性役割は、高木果実の採取・牧畜・耕作・会議、女性は、地下に生じる塊根類の耕作および採取、育児、洗濯、料理等である。

タナ・トラジャの祭儀は、宇宙観により、ランプ・トゥカ（日の出の祭儀）と、ランプ・ソロ（日没の祭儀）の二つに分けられている。前者は、生命の誕生、感謝祭、住居・穀倉の新築、結婚式等であり、後者は、生命の終わり、即ち悲しみの祭儀を指すのである。

## 文 献

- 1) 伊藤重人・関本照夫・船曳建夫：現代の社会人類学，2，儀礼と交換の行為，3～51，137～190，（勸東京大学出版会（1987）
- 2) 第2回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会：アジアその多様な世界，8～13，90～98，164～171，朝日出版社（1988）
- 3) リー・クーンチョイ：インドネシアの民族，48～67，サイマル出版会（1979）
- 4) エドワード・エバンズ＝プリチャード：世界の民族，10，東南アジア島嶼部，94～99，平凡社（1979）
- 5) ヴォルフ・キーリッヒ：世界の民族と生活，11，インドネシア，107～121，ぎょうせい（1981）
- 6) クンチャラニングラット：インドネシアの諸民族と文化，136～333，文遊社（1980）
- 7) 佐藤多紀三：インドネシア民族文化，102～105，雄山閣，（1986）

## Summary

The elucidation of the clothing life of Toraja tribe, lives in Tana・Toraja area, southern Sulawesi, was tried, analyzing their traditional social organization. The results are as follows.

- (1) Toraja tribe is a highlander, lives in inland mountain area of the island and there are many villages independently with the clear borders.
- (2) The hereditary caste system is maintained firmly in Toraja society. The classes are aristocracy and its relatives, common people and employee.
- (3) In a house several families (spread family) live. Furnitures are few, i. e. there are only a few rough stools and a tablu and bed is none. In Toraja society, it is believed that all properties should be owned in common by all members and their cooperative spirit is in high.
- (4) Near the house each family has a barn and rice is stored in them.
- (5) By their philosophy of life, in their life the funeral is the greatest ceremony to search for

happiness.

- (6) In Toraja society based on their world view (cosmos view) , the social custom is established, for instance the role of work and of ceremony between male and female. By their world view, the cosmos is dual, that is the upper world the heaven is male and the lower world the earth is female. In their thought, the position of male and female is clearly fixed. The roles of male are to pick the fruits of high trees, cattle breeding, cultivation and meeting. The role of female are the cultivation and the gathering of taro, chidcare, washing, cooking and etc.

By their comos view, the ceremony of Tana ·Toraja tribe is divided to Rabu Tuka (the ceremony of sunrise) and Rambu Solo (the ceremony of sunset) . The former is the birth of lefe, the thanksgiving, the build of house and granary and the marriage ceremony. The latter is the end of lefe, namely the ceremony of sorrow.